

平成29年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(1) 諸室を活用した各種事業の実施	ア 常設展示室を活用した取組み	●継続して展示ストーリーの見直しを図ります 実物展示だけでなく、体験展示、解説展示を随時更新します	■人形の実物展示に加え、人形の背景をわかりやすく伝える解説パネル、関連するもの、映像などを合わせて展示します	パネル、映像など設置を実施	修正、更新を随時行い人形の閉経が分かる開設パネルを随時追加	【成果】 新しい施設イメージのさらなる構築を図り、発信するために、細部に拘った展示手法や展示解説を行うなど、工夫を施して運用にあたった。 企画展では、シルバニアファミリー、モンチッチ、ファイナルファンタジーなどキャラクターを起用した展示を行い、多くの来場者を魅きつけ、近隣施設からも高評価を得ることができた。さらに、清水真理展、後藤由香子展、常設展示内のミニ展示など、コアファンをターゲットとした展示も行い人形ファンからの高い評価を得ることができた。 空きスペースを利用した第二企画展や体験イベントなどを定期的に開催し、常に動きのある施設のイメージづくりを目指し展示だけに留まることなく劇場やショップ、カフェ、空きスペース、エントランスで1つのテーマに沿った複数のイベントを開催し館全体に賑わいをもたらすよう努めた。 展示物と解説だけでは伝わらづらい作者の思いや人形の背景などを映像で紹介し来場者の満足度に繋げることができた。 企画展と連動した常設展示内ミニ展示やコンテスト形式の参加型展示など新しい試みを挑戦することで、広く多くの方に人形の新しい魅力を伝えることができ、イメージビジュアルを重視した積極的な広報戦略が良い流れをつくりSNSを活発に活用することで人形文化の裾野を広げていると感じている。	【評価できる点】 常設展ではミニ企画展の開催や、学校団体向けのプログラムを実施し、積極的に常設展示室の活用に取り組まれている。 企画展ではシルバニア、モンチッチなど一般にも知られているような企画展を実施し入館者数増加につながった。 あかいくつ劇場に関しては、人形劇はもろろんのこと、シルバニアファミリー展や後藤由香子展と連動した映像上映を行う等空き状況を活用した取組がなされている。 多目的室の利用では、ファイナルファンタジー展、清水真理展を第2企画展として打ち出し、さらに多くの方の来館を得た。 情報発信・広報活動としては、館内の接客やアンケート結果等から中国からの来館者が増えている事をつかみ、中国語のパンフレットを作成した。情報の拡散にも目を配りSNSも活用し、多くの方の目に留まるようPRしている。 また(公財)横浜観光コンベンション・ビューローと連携し、「横浜トラベルインフォスポット」に登録。様々な情報発信ツールを利用し広く広報活動に取り組まれている。	
		●変わり続ける常設展示を目指し、常設展示の中でもミニ企画展を開催します	■いつも新鮮な出会い・発見がある、来るたびに新しいと感じられるように、テーマやトピックスを設定し展示更新を行うコーナーを設けます	□6回/年2カ月程度で展示更新	トピックスコーナー 5回 プチギャラリー前 7回 ミニ企画展 4回			A
		●展示を活かす教育普及プログラムを実施します	■ギャラリートーク/解説ツアー 学芸員による展示の解説ツアーを状況に応じて適宜、実施します	□体験型プログラム10種類を提供します	団体数 12団体/10種類			B
	イ 企画展示室を活用した取組み	●繁忙期の満足度アップ、閑散期の集客などを考え、企画展を3つの種類に区分し、実施します	■関連プログラムの実施企画展のテーマに関連して、ワークショップ、トークショーなど各種の関連プログラムを開催します	□大小さまざまな企画展を年間6本実施します	6本	B	【課題】 企画展入れ替え期間中の来場者数の落ち込みを減らすために第二企画展やイベントの開催を行うなどの施策が必要と考えるが、多目的室・あかいくつ劇場の貸室利用者とのバランスを保つ必要もあるため、企画段階での調整が難しく、見極めが課題である。 また、混雑時に館内各所において滞留や待ち列ができてしまうため、滞留しないための導線確保や誘導方法など改善が必要。 体験型イベントの人气が高く、参加が困難な状態が続いているが、回数や定員を増やすなどの対応にも限界があるため、より多くの利用者が参加できるような対策を見つけることが今後の大きな課題である。	
		●展示を活かす教育普及プログラムを実施します	■ギャラリートーク企画展に応じたギャラリートークを実施します	□有料6回以上/年 □無料6回以上/年	有料 20回 無料 9回	A		
		●展示を活かす教育普及プログラムを実施します	■会場アンケートを行い、次回の企画展などに活かします	□6回以上/年	6回	B		
	ウ あかいくつ劇場を活用した取組み	●より多様な人形劇を鑑賞できる機会と場を創出します	□人形劇メルフェンフェスティバルを実施します 6月3日・4日・10日・11日4日間実施 □アマチュア劇団による新春人形劇を実施します	人形劇メルフェンフェスティバル 4日間実施 新春人形劇実施	B	【改善が必要と考えられる点】 常設展では展示内容を一変させることは難しいかもしれないが、魅力的な展示になるよう工夫してもらいたい。 企画展はシルバニアファミリー展のような人気企画を計画してもらいたい。 引き続き、貸室利用者や自主事業とバランスを図りつつ、あかいくつ劇場を活用してもらいたい。 広報活動に関しては、今後も様々な媒体で積極的に取り組んでほしい。		
		●人形劇の可能性を広げるとともに、より多くの方に人形劇に親しんでいたため各団体と連携した取組みを強化します	□団体の特色を活かしたイベントや公演を実施します 年6回以上	公演 5回	B			
		●人形劇に留まらず多種多様な公演の実施を行います	□音楽コンサートなどを実施します □企画展と連動したキャラクターショーを実施します	音楽コンサート 12回 キャラクターショー 3回				
		●貸室以外の時間を活発に活用します	■団体向け休憩場所として提供します ■人形に関係する動画上映を行います	状況に応じて随時実施	あかいくつ劇場の認知度拡大にも繋がっています 50日間上映 利用者の満足度が高く、あかいくつ劇場の認知度拡大にも繋がっています			
	エ 多目的室・プチギャラリーなどを活用した貸室以外の取組み	●多目的室やプチギャラリー等の稼働率を高めるため、貸室以外の時間を各種の講座・講習のための部屋、第2の企画展示室、交流サロンなどとして活発に活用します	■第2企画展示室3階の企画展示室とは別テーマの企画展を同時に開催します	第2企画展3事業		専門性や独創的な作品起用することで新しい人形文化を紹介		
		多目的室を活用します	■特設物販コーナー 人気の高いと想定される企画展の際には、関連グッズを販売する特設物販コーナーとして運用します	2事業/年				
プチギャラリーを活用します		■情報コーナー人形に関わる図書、雑誌を閲覧できるミニ図書コーナーとして運用します	図書コーナー設置 企画展関連イベント 3事業/年		閲覧内容を随時更新			
エントランスを活用します		■横浜市の最新動向、トピックス、まちのさまざまな話題を紹介するミニコーナーとして運用します	情報コーナー、 イベント実施2事業/年		季節や話題性のちなんだ事業を実施			
イベントスペースを活用します		■イベントコーナー誰もが気軽に参加し楽しめるイベントを開催します	体験プログラム12事業 ※多目的室実施プログラム含む					

平成29年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		評価		
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
オ	活発な情報発信と広報活動	●積極的かつ地道できめ細かな広報活動で、来館者数を拡大します	■パンフレット、ホームページ、SNSを活用した施設案内の充実を図ります	□中国語対応パンフレットを作成 □プレスリリースの定期的な発行 6回/年発行	中国語パンフレット設置 プレスリリース 11回	中国語パンフレット(簡体字、繁体字)2種類、新設		
			■各イベントのターゲットに適した媒体の情報収集とアプローチを行います	□施設案内やイベント情報の提供として DOLL NEWSを発行し、横浜市小学校、近隣施設へ配布 2回/年発行	DOLL NEWS 2回発行/年	B		
			■東急グループの組織力を活かしたPR東急コミュニティーが管理する当館周辺物件に発行している冊子「暮らしの窓」に当館のチラシを封入します		実施なし	実施を試みたが、費用対効果が見合わず実施に至りませんでした		
			■関連施設等で、パンフレットの設置や、人形の展示やワークショップを行い、PR活動を行います	■広報イベントや出張ワークショップを実施します	近隣・関連施設へのパンフレット設置 PR展示1回 出張イベント3回			
	●出張展示／出張ワークショップを行い、PR活動を行います	●観光に関する情報提供スタッフは“おもてなしの心”を大切に観光案内スタッフとして機能します	■キャラクター「ドルティ」を有効に活用し、施設のPRを図ります		1回出張イベント	その他、施設付近にてドルティ着ぐるみによりPRを実施		
			■観光情報コーナーの設置エントランスホールの一角に観光情報コーナーを設けます		情報コーナー、図書コーナー設置			
			■市や観光コンベンションビューローと連携して、ポスターやパンフレットを支給いただくだけでなく、観光施策に関わる最新情報を提供いただき、スタッフに周知し、観光情報の案内を行います		告知物の設置、観光情報案内の実施	インバウンド対応で連携し情報発信を随時行っています		
			■発表の場の提供 空きスペースを利用し、市民や大学サークルの劇団の方に人形劇などの発表の場を提供します		5件	アマチュア人形劇団に発表の場を提供するほか、勉強の場や話し合いの場として場所の提供を行いました		
(2)人形文化の振興と人形劇団の支援	●アマチュア人形劇団の支援	●人形文化の振興	■メールボックス・掲示板の設置 公演の案内や団員募集などができる掲示板をエントランスホール及び劇場ホワイエに設置します		随時更新		【成果】 継続的な活動に加え、企画展やイベントと連動した事業内容の構築により、当館発信の告知物にアマチュア人形劇団の公演や紹介の掲載を増やした。また人形劇団員の勉強会の場を提供し、当館スタッフと劇団員の情報交換を行うなど、より良い関係を築くことができた。 親子向けにプロ人形劇団員との交流の場の提供や人形劇ワークショップの開催を行った。また、実際に触れて動かすことのできる人形の展示やミニステージの設置を行うなど人形劇に触れる機会を提供することができた。 【課題】 人形劇団員のスケジュールを優先してイベントや勉強会を開催するため、会場の空き状況やスタッフのスケジュール調整、告知のスケジュール調整などの改善が必要。 学生サークルなどとの連携ができるよう努めたい。	
			■館の広報ツールでの紹介 館として運用するフェイスブックなどのSNSなどで、各人形劇団を紹介したり、各種の告知を掲載するなど広報に協力します		随時実施	当館イベントと連動した内容に話し合いを行い、イベントチラシと合わせて告知物掲載、人形劇団の紹介		
			■空きスペースを利用して、人形劇人形の展示を行います		常設展示内にて随時展示更新	展示物を随時更新		
			■体験型人形劇プログラムの構築		1事業/年			
(3)連携事業の充実	「地域連携」「小中学校連携」「大学連携」の3つの連携で、横浜人形の家を観光振興拠点・文化振興拠点としてさらに活性化させます	○各種地域団体との連携	■山下公園地区・みなとみらい地区・JICA横浜海外移住資料館等の観光文化施設や商業施設との連携活動を行います	□横浜トリエンナーレ関連イベント実施 □ワールドフェスタ横浜関連イベント実施 □横浜山手西洋館ハロウィンウォーク関連イベント実施	共通チケット 2事業 連携協力 7事業	「横浜トリエンナーレ」関連した第2企画展示を計画していたものの、作家の事情により開催に至りませんでした	【成果】 地域の取組には積極的に参加するよう努めたことにより、近隣各所とよりよい関係を築くことができ、イベント開催への発展やお互いに協力関係を築くことができた。 横浜市事業への参加は、多くの利用者に当館を周知する機会でもあり、当館だけでは実現できない規模のイベントを開催することで、集客や、満足度向上に繋げることができた。 【課題】 これまで以上に地域と連携した活動を活発に行いたい。また、教育機関との連携を増やしていくことは今後の課題である。	
			○小中学校との連携	■市内の小中学校を中心に誘致活動を行い、教育の場を提供します		2件/年		
			■アウトリーチ活動(出前教室)で活用する貸し出しキットの運用を行います		実施なし			
			■教員向けの当館の利用案内を配布します		団体向け施設利用案内配布			
	○大学連携	■要望に応じて、生徒の職場体験、教員の異業種体験研修を受け入れます	■市内の大学・専門学校を中心に連携を進めます		実施なし	要望はあったものの、スケジュール等が合わず実施に至りませんでした	【評価できる点】 山下公園、みなとみらい等における連携活動については、月に1回以上の頻度で活動されており、積極的に取り組まれている。 引き続き連携活動を進めてもらいたい。 【改善が必要と考えられる点】 地域連携と比べ、学校との連携、特に大学との連携が要望がないため実績がない現状である。 今後大学に対してどのようにアプローチをしていくか検討していく必要がある。	
			■要望に応じて、学生の研究成果の発表の場を提供します		要望なし	「後藤由香子人形展(仮称)」にて大学連携事業の協議をしたが実施には至りませんでした		
			■要望に応じて大学からのインターンを受け入れます		要望なし	横浜市内の2大学に連携依頼のチラシ配布を打診した経緯あり(成就せず)		
			□大学と連携したワークショップ		実施なし	医大とのインターン検討の経緯あり(成就せず)		
			□大学と連携した展覧会紹介動画の制作		実施なし			

平成29年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況			
事業についての計画		達成指標	目標	実績	説明		
(1)集客拡大及び施設の活性化 ア 利用者数の拡大 イ ショップ・カフェ活用したサービスの充実 ウ 駐車場の安全管理と利用者の拡大	指定管理者提案(要旨)	●利用者数目標	□7万人	98,518(有料入館者80,481)	A		
		●特別開館および開館時間の延長	■集客の見込める展覧会期間中の特別開館日 □繁忙期やイベント時は、随時延長営業いたします	特別開館2回 無料開放2回	B	特別開館の1回は「内覧会」実施によるもので招待者のみの開館	
		●あかいくつ劇場・多目的室の利用促進	■貸館に関するパンフレットなどの印刷物を制作します ■学校、地域団体、周辺施設へご案内をします ■貸室利用者へのショップ・入館料の割引サービスなど、必要に応じて利用者サービスの向上となる臨機応変な各種サービスを提供します	□あかいくつ劇場の目標利用率を60%と設定します(夜間コマを除く) □多目的室の目標利用率を70%と設定します	あかいくつ劇場利用率 68.09% 多目的室利用率 63%	B	多目的室については、貸室利用を優先したため自主事業を実施することができませんでした
	イ ショップ・カフェ活用したサービスの充実	●魅力あるミュージアムショップの運営	■展覧会関連商品コーナーの設置	10回入替/年	10回入替/年	企画展、第2企画展毎に更新 その他随時商品入れ替えを実施	
			■企画展の内容により特設売店を設置します。常設ショップと相互に売上向上につながるよう商品構成、販売促進を行います	各展覧会関連、特設販売	各展覧会関連、特設販売	第2企画展示会場内、またエントランスにて特設ブース設置	
		●お客様目線で、ニーズに応じた商品を取り扱い、企画展へお客様を誘導する工夫をします	■人気の人形関連グッズ、タイムリーな季節商品の拡充を図る為に、取引先の新規開拓を行います	随時、新規開拓	随時、新規開拓		
			■オリジナルグッズの開発を行います	6種類	6種類	企画展と連動したオリジナル商品の開発を実施	
		●特徴を活かしたカフェの提供	■定例ミーティングを行い、情報を共有し、人形の家に対応しい飲食施設としての質とサービスを確保します	適宜実施	適宜実施		
			■シアトルで修業を積んだ日本有数のパスタによるラテアートを提供します ■イベント・企画展と連動したサービスを提供します	実施 2事業/年	実施 2事業/年	展示と連動した特別メニューの開発	
	ウ 駐車場の安全管理と利用者の拡大	●利用者の安全を第一に考えた仕組みづくりを展開します	■常駐スタッフによる安全管理・情報収集活動 施設利用者及び地域における情報の収集・分析・危険発生事例の検証など ・安全感知活動 駐車場内の不審者・不審物・危険箇所・火気・可燃物等のチェックなど ・施設開錠確認業務 管理室周辺の管理、使用室以外の施錠及びその確認 など ・点検業務 建物・設備・屋外施設等の不具合箇所の発見、警報・盤類の点検、避難路の障害物チェック など	適宜対応	適宜対応		
			■バス会社、旅行会社へ積極的なアプローチを行い利用拡大に努めます	適宜対応	適宜対応		
		●利用者拡大に努めます	■ドライバーから分かり易い案内表示を見直し改善します ※料金設定については、利用者ニーズ、周辺の状況に応じて、適宜、見直しを図ります	適宜対応	適宜対応		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】 企画展を軸に多くのイベントを展開することで、多くの利用者と各諸室の稼働率を上げることができただけでなく、利用者の満足度向上に繋がる結果となった。 企画展と連動したショップ・カフェの展開が相乗効果として売上や情報発信のイメージアップに繋がった。またオリジナル商品の開発やメーカーとのコラボ企画、オリジナルドールの開発など話題性を自らつくるなど新しい試みに挑戦した結果、利用者の拡大に繋がった。</p> <p>【課題】 教育機関へと連携した取組が課題であり、団体利用を増やすことを目指したい。 駐車場の利用については、バスや予約を多くすることで普通車の利用が困難となり、施設利用者のサービス低下に繋がりが兼ねない一面もあるため、バランスを見極めた運用が必要である。 ショップの売上が好調な反面、在庫の保管場所の確保が問題であり、スペースの有効活用の検討が課題である。</p>	<p>【評価できる点】 魅力ある企画展を実施し、また関連商品コーナーの設置、オリジナルグッズの開発等も手掛けられ、入館者数は98,518人と前年度比22%増となった。 あかいくつ劇場に関しても、予約がない際には企画展に関連した映像放映する等、活用されている。 ショップに関しては展覧会関連商品コーナーや企画展の特設売店の設置、さらにオリジナル商品の開発が行われている。 展示のみではなくショップも活用されており、相乗効果をもたらした。また駐車場は売り上げの一部を占める大事な要素であることから、一般の来訪者のスペースを配慮しつつ、バス会社等と契約を適宜行い、収入を上げている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】 多目的室の利用が目標値に至らなかったが、利用率6割を超えることができた。 市民にも貸室として利用してもらうことは重要なことなので、あかいくつ劇場とともに引き続き活用に動んでもらいたい。 また、学校等の団体に利用してもらう手法の検討を続けてほしい。 駐車場利用が入館につながるよう工夫してほしい。</p>

平成29年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況		
事業についての計画	指定管理者提案(要旨)	達成指標	目標	実績	説明	
(2)安全かつ快適で効率的な運営	ア 専門性を有する人材配置と共同事業体のノウハウを生かしたスタッフ育成	●必要な分野の専門性を有する人材を適切に配置します	■館長と副責任者はマネージメント業務経験者、同種施設の運営経験者を配置します	常勤6名配置	B	
		●共同事業体のノウハウを生かしたスタッフ育成	■丹靑社・東急コミュニティーのノウハウを活用して十分な研修を実施。本社・現場がチーム一体となって質の高い運営を実現します	館長、副館長配置		
		●必要な分野の専門性を有する人材を育成	■学芸員は学芸業務経験者を配置します	学芸員配置		
			■指定管理業務開始後も、共同事業体の社員教育ツール・システム等を活用しつつ、継続的なフォローアップ研修を実施し、業務に対するスタッフの高い意識・姿勢を維持・持続させるとともに、各人の能力・スキルのさらなる向上を図ります	外部研修3回		
	イ 収蔵資料の保存、管理	●文化財IPM(総合的有害生物管理)の考えを基本として収蔵品を管理します	■日常の管理を徹底して行います(清掃・見回りを定期的に行います)		適宜実施	
		●収蔵品に対する地震対策を行います	■現状の問題点、改善点を把握し、中長期計画を作成します		適宜対応	
		●スタッフ全員で資料の保存、管理を行います	■Sランク収蔵品について 棚からの飛び出し防止のため、落下防止用のバンドなどを追加し、収蔵庫内の安全性を高めめます		適宜対応 落下防止バンド設置	
		●温度・湿度管理を徹底します	■スタッフ勉強会を定期的に行います	□IPMについて1回	適宜対応 IPM勉強会1回	B
	ウ 来館者の思いやニーズを先取りし、苦情を未然に防止します。万が一、発生した際は、真摯に対応し業務改善に活かし、再発防止に努めます	●苦情等トラブルの未然防止の徹底	■利用者との会話やアンケート調査等を通じて、利用者の意見・要望等を把握します		随時実施	アンケート、スタッフ聞き取り、Webご意見を毎月集計
		●発生時の的確な対応	■丹靑社や東急コミュニティーが運営する施設での苦情事例等を踏まえつつ、未然防止策や発生時の対応策を検討し、マニュアルを作成します		実施	
		●再発防止や業務改善の徹底	■苦情防止・対応等を含めたスタッフ研修を行います		適宜対応	
			■事実に基づく対応(現場・現実・現物主義)を基本とし、十分な事実確認を行った上で適切な措置(お詫び・謝罪、賠償等)を行います		適宜対応	
		■苦情内容などを速やかにスタッフに報告するとともに、市への報告も迅速に行います		適宜対応	随時横浜市へ報告済	
		■苦情等の内容や処置、原因・防止策等の情報を蓄積し、苦情防止・対応マニュアル等を継続的に改訂します		適宜対応		

評価	
自己評価	行政評価
<p>【成果】</p> <p>スタッフを対象とした研修や勉強会を定期的に行い、各自のスキルアップを目指した。各自がそれぞれの専門性を発揮しながらも多種多様な業務を積極的に行うことで、利用者の満足度やクレームの未然防止につなげることができた。</p> <p>展示制作においても内製のクオリティーを上げるようスタッフ同士が協力しながら日々勉強を行った。</p> <p>収蔵資料の管理も特定のことだけを行うのではなく、日々の運用の中でできることをスタッフ全員が心掛けて行った結果、劣化や修繕が必要な箇所などを事故につながる前に発見することができた。日々の研修や訓練の結果、トラブル時の対応のスキルアップに繋がっている。</p> <p>【課題】</p> <p>更なるスキルアップやクオリティーの向上を目指し、スタッフ同士の勉強会など楽しみながら行える勉強会の継続が必要と考えている。また展示制作においても外製や外部講師を招いての研修などバランスを取りながらの運用が効率を上げるためにも必要である。</p>	<p>【評価できる点】</p> <p>各スタッフが様々な研修等へ参加することや、スタッフ同士の勉強会を適宜実施することで、常にスキルアップを意識していることが伺える。</p> <p>また日々の来館者への対応にも気を配っており、大きなクレーム等はなく質の高いサービスを提供している。</p> <p>施設維持や危機管理に適切に対応している。</p> <p>収蔵に関してはランクごとに収蔵されており、Sランクのものは災害時に備えバンドを設置し、安全性を高めるといった配慮をしている。</p> <p>【改善が必要と考えられる点】</p> <p>研修は随時実施されている。その都度必要な内容となるよう見直し、実施してもらいたい。</p>

平成29年度 横浜人形の家指定管理者業務評価表(自己評価・行政評価)

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		H29年度計画		実施状況			
事業についての計画		達成指標	目標	実績	説明		
エ	安心、安全、安定、快適な施設の維持管理について	●人形の適切な保管のための施設管理	■機器の留意点を理解した空調管理をします	実施			
			■破損、盗難を未然に防ぐ日常巡回を実施します	実施			
		●貸館・貸室の適切な貸出	■点検記録簿を活用し、貸出備品の適切な管理を行います	実施			
			■貸館、貸室入替え時の清掃の実施	実施			
		●建物 longevity に互利利用可能な施設保全	■予防保全の考え方にに基づき、日々の点検で不具合箇所の早期発見に努めます	□年1回、館内全スタッフにて「館内一斉総点検」の実施	1回/年	B	
			■多重チェックにより、施設補修箇所の出しと修繕重要度のレベル分けを行います	実施			
		●各種設備の管理保守点検の実施	■業務の基準に基づき、定期的な設備の点検を行います。また、常駐設備員による目視点検を実施します	実施			
		●快適な環境維持	■業務の基準に基づき、日常・定期清掃を実施し、美観の維持に取り組みます	実施			
	オ	危機管理対策の充実	●消防訓練を実施し、職員の防災意識向上を図ります		□消防訓練を年2回実施します	消防訓練2回	B
			●消防計画を作成し運用します	■消防法を遵守した施設管理を行います	実施		
●危機管理マニュアルを必要に応じて改定し、最新ものを職員に周知するとともに、事務室内に常備します			■危機管理マニュアルは常に最新ものを整備します	実施			
●日々の現金管理を確実にします			■安全な現金管理を行うため、金庫内の現金を営業日に確認し、現金有高表を作成します	実施			
		■営業日の売上げ集計は複数名で確認して、確実にします	実施				

評価	
自己評価	行政評価

評価項目		H29年度計画		実績		説明	
収支予算		達成指標	目標	実績		説明	
収支予算	収支計画 収支バランスの確保	■収支予算計画に基づき、月ごとの実績値の管理及び分析・検証を行い、必要に応じて見直しを図りながら収支バランスの均衡を確保します		適宜実施	チェック	月ごとに実績値を検証し、翌月以降の支出の見直し等を行い収支のバランスを図りました	
	収入 事業努力による各種収入の確保	■企画展をはじめとした活発な各種事業の実施及び広報活動により施設の利用者数を増やし、収入の確保を図ります		適宜実施		効果的な広報活動および関連イベントを実施して、利用者数を安定的に確保し、利用収入が増えました	
	支出 効率的な運用、コスト削減	■事業費の効率的・効果的な執行。事務経費、光熱水費をはじめ日常的な経費削減に努めます		適宜実施		事業費の支出を効率的におさえ、施設管理費の削減に努め、コスト削減を実現しました	

評価	
自己評価	行政評価
【成果】 企画展などの事業費を大幅におさえることができ、月によって支出の多い月と少ない月があるが、計画的な管理が実行できた。	【評価できる点】 事業費をおさえ、施設管理費の削減を図り、支出をおさえた。また収入については企画展等でのイベント等により収入を増やした。月毎で差はあるが、年度全体で収支のバランスを図ることができた。
【課題】 事業収入を増やすために、多目的室を活用したイベント事業の効果的な増収やショップ売上の利益率向上を図る必要がある。	【改善が必要と考えられる点】 収入の確保に向け、GWや夏休みには親子をターゲットにするなど適時適確な企画展を企画し、引き続き広報に一層注力してもらいたい。

評価項目		H29年度計画	
総括	特記(提案事項要旨)	達成指標	
1			